



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 広島電鉄株式会社

上場取引所 東

コード番号 9033 URL <http://www.hiroden.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 椋田 昌夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総合管理・経営管理担当 (氏名) 倉本 勇治

TEL 082-242-3542

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	30,024	1.6	1,150	25.8	998	23.2	1,068	19.6
25年3月期第3四半期	30,498	12.2	1,550	0.8	1,300	6.4	893	17.2

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 1,242百万円 (25.6%) 25年3月期第3四半期 989百万円 (63.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年3月期第3四半期	17.61	
25年3月期第3四半期	14.73	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	90,680	35,214	38.0
25年3月期	92,048	34,199	36.4

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 34,441百万円 25年3月期 33,479百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年3月期		0.00		3.50	3.50
26年3月期		0.00			
26年3月期(予想)				3.50	3.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	39,940	4.0	680	52.7	390	65.0	1,320	4.8	21.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	60,891,000 株	25年3月期	60,891,000 株
26年3月期3Q	229,503 株	25年3月期	228,603 株
26年3月期3Q	60,662,113 株	25年3月期3Q	60,663,130 株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種経済対策と日銀の金融緩和による円安・株高の定着を背景に、輸出や個人消費の持ち直しなどにより企業の業績回復が進み、幅広い業種で景況感が向上しました。一方で平成26年4月の消費税引き上げ決定により、増税前の駆け込み需要は期待されるものの、増税後の反動による景気の腰折れが懸念されております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、広島市が事業主体である電車の広島駅前通り線の整備や、広島県と廿日市市が事業主体である宮島口整備事業といった事業を関係機関と協力しながら推進してまいります。また、平成24年7月に着工し、現在まで順調に工事が進捗している大規模不動産開発プロジェクト「石内東地区開発事業」につきましても、引き続き造成工事を安全かつ堅実に施工するよう、工程管理を行ってまいります。

これらの将来計画を念頭に置きつつ、旅客輸送における一層の安全確保や、顧客へのサービス向上を図り、各事業とも積極的な営業活動を展開することで収益の確保に努めました。

当第3四半期連結累計期間の営業収益は、運輸業、不動産業および建設業が増収となったものの、流通業およびレジャー・サービス業が減収となり、前第3四半期連結累計期間と比較して1.6%、474百万円減少し、30,024百万円となりました。利益につきましては、主に運輸業において、人件費や燃料費の増加に加え、輸送の安全確保のための設備投資や修繕費が増加したことにより、営業利益は、前第3四半期連結累計期間と比較して25.8%、400百万円減少し、1,150百万円となり、経常利益は、前第3四半期連結累計期間と比較して23.2%、301百万円減少し、998百万円となりました。四半期純利益は、見積実効税率の下落に伴い法人税等が減少したため、前第3四半期連結累計期間と比較して、19.6%、174百万円増加し、1,068百万円となりました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① (運輸業)

運輸業におきましては、鉄軌道事業では、平成25年4月から5月にかけて開催された「ひろしま菓子博2013」が寄与し、増収となりました。自動車事業では、平成25年4月1日から中国横断自動車道・尾道松江線へ運行ルートを変更した高速バス広島松江線が順調に推移したものの、そごう呉店閉店による呉市内中心部の利用減などにより、減収となりました。海上運送業では、大河ドラマ「平清盛」の放映終了による団体ツアー客の減少により、減収となりました。索道業では、「平清盛」放映終了による減収が懸念されましたが、「広島県デスティネーションキャンペーン」の寄与や工事中であった弥山展望休憩所の部分供用開始にあわせた旅客誘致の取り組みなどにより、増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は、前第3四半期連結累計期間と比較して0.2%、28百万円増加し、16,555百万円となりましたが、人件費や燃料費、修繕費の増加により営業利益は、前第3四半期連結累計期間654百万円に対し、71.2%、466百万円減少し、188百万円となりました。

#### ② (流通業)

流通業におきましては、平成25年7月にマダムジョイ牛田店を開店、平成25年8月に路線バスを改造した移動販売を開始し増収を図りましたが、平成25年2月末のマダムジョイアルパーク店閉店による売上の減少のほか、競合他店との競争激化による影響もあり、大幅な減収となりました。

また、宮島口もみじ本陣では、大河ドラマ「平清盛」の放映終了による団体ツアー客の減少により減収となりましたが、宮島・下松のサービスエリアにおいては、商品等の充実を図るなどしたほか、近接のサービスエリア・パーキングエリアの改修工事の影響による利用者の流入もあり、増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は、前第3四半期連結累計期間と比較して7.7%、736百万円減少し、8,871百万円となり、営業利益は、前第3四半期連結累計期間198百万円に対し、37.2%、74百万円減少し、124百万円となりました。

#### ③ (不動産業)

不動産業におきましては、不動産賃貸業では、平成24年2月に竣工した「広島トランヴェールビルディング」が平成24年11月に全テナントの入居が完了したことや、平成24年11月に国泰寺賃貸ビルを購入したことなどにより、増収となりました。また、不動産販売業でも、既存団地の販売促進により、増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は、前第3四半期連結累計期間と比較して10.6%、233百万円増加し、2,427百万円となり、営業利益は、前第3四半期連結累計期間474百万円に対し、42.2%、199百万円増加し、674百万円となりました。

④ (建設業)

建設業におきましては、耐震工事等の公共工事の受注増により、大幅な増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は、前第3四半期連結累計期間と比較して16.8%、384百万円増加し、2,670百万円となりましたが、営業利益は、前第3四半期連結累計期間59百万円に対し、18.5%、11百万円減少し、48百万円となりました。

⑤ (レジャー・サービス業)

レジャー・サービス業におきましては、ホテル業では、平成25年4月から5月にかけて開催された「ひろしま菓子博2013」、7月から9月の「広島県デスティネーションキャンペーン」が寄与し、宿泊部門は増収となりましたが、平成25年3月末にグリーンバードゴルフ倶楽部内レストランを撤退した影響により、減収となりました。

ゴルフ業では、来場者の減少と価格競争の激化により、減収となりました。

ボウリング業では、「健康ボウリング教室」の精力的な開催により固定客が増加し、増収となりました。ゴルフ練習場においては、シニア層の来客の減少により、減収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は、前第3四半期連結累計期間と比較して3.5%、52百万円減少し、1,438百万円となり、営業利益は、前第3四半期連結累計期間146百万円に対し、32.8%、48百万円減少し、98百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は、「現金及び預金」の減少828百万円、主として減価償却による有形・無形固定資産の減少1,092百万円などにより、前連結会計年度末と比較して1,368百万円の減少となりました。負債は、前連結会計年度に行った設備投資に係る支払いや、販売用マンションの建築代金の支払いによる「未払金」の減少2,100百万円などにより、前連結会計年度末と比較して2,383百万円の減少となりました。純資産は、四半期純利益の計上により、前連結会計年度末と比較して1,014百万円の増加となり、自己資本比率は1.6ポイント上昇の38.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績の見通しにつきましては、第2四半期決算発表時(平成25年11月7日)の予想を変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

当社は、当社の100%子会社である広電不動産株式会社を平成25年4月1日付で吸収合併いたしました。なお、広電不動産株式会社は前連結会計年度において特定子会社には該当しておりません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,229	5,401
受取手形及び売掛金	1,621	1,698
販売土地及び建物	8,631	8,535
未成工事支出金	213	801
商品及び製品	144	199
原材料及び貯蔵品	391	450
その他	1,934	2,111
貸倒引当金	△7	△9
流動資産合計	19,159	19,188
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,914	17,261
機械装置及び運搬具（純額）	4,540	4,127
土地	42,971	42,950
建設仮勘定	3	24
その他（純額）	976	991
有形固定資産合計	66,406	65,355
無形固定資産		
借地権	45	45
その他	198	157
無形固定資産合計	244	202
投資その他の資産		
投資有価証券	3,935	3,988
長期貸付金	14	15
その他	2,397	2,036
貸倒引当金	△108	△107
投資その他の資産合計	6,238	5,932
固定資産合計	72,889	71,491
資産合計	92,048	90,680

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,382	1,492
短期借入金	12,840	14,230
1年内償還予定の社債	479	514
未払金	3,177	1,077
未払法人税等	885	249
未払消費税等	371	277
未払費用	816	925
預り金	1,244	1,190
賞与引当金	1,050	372
役員賞与引当金	19	—
その他	3,219	3,210
流動負債合計	25,487	23,540
固定負債		
社債	934	899
長期借入金	12,085	12,106
再評価に係る繰延税金負債	11,684	11,677
退職給付引当金	1,632	1,488
役員退職慰労引当金	59	—
その他	5,964	5,753
固定負債合計	32,360	31,925
負債合計	57,848	55,465
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,335	2,335
資本剰余金	1,972	1,972
利益剰余金	7,150	8,019
自己株式	△90	△91
株主資本合計	11,368	12,236
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,079	1,186
土地再評価差額金	21,031	21,018
その他の包括利益累計額合計	22,111	22,205
少数株主持分	720	772
純資産合計	34,199	35,214
負債純資産合計	92,048	90,680



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益	30,498	30,024
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	23,219	22,887
販売費及び一般管理費	5,728	5,986
営業費合計	28,947	28,873
営業利益	1,550	1,150
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	74	82
持分法による投資利益	18	14
受託工事収入	0	185
その他	89	54
営業外収益合計	184	338
営業外費用		
支払利息	308	268
受託工事費用	0	185
その他	124	36
営業外費用合計	434	490
経常利益	1,300	998
特別利益		
固定資産売却益	42	0
工事負担金等受入額	466	619
その他	14	61
特別利益合計	523	681
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	4	4
固定資産圧縮損	175	210
減損損失	15	21
特別損失合計	195	237
税金等調整前四半期純利益	1,628	1,443
法人税等	660	308
少数株主損益調整前四半期純利益	968	1,135
少数株主利益	74	67
四半期純利益	893	1,068

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	968	1,135
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	106
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	21	106
四半期包括利益	989	1,242
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	915	1,175
少数株主に係る四半期包括利益	74	67

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

区分	運輸業	流通業	不動産業	建設業	レジャー・サービス業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
営業収益								
外部顧客への営業収益	16,520	8,691	1,815	1,987	1,483	30,498	—	30,498
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	6	916	378	298	7	1,607	△1,607	—
計	16,527	9,608	2,193	2,286	1,490	32,106	△1,607	30,498
セグメント利益	654	198	474	59	146	1,534	15	1,550

(注) 1 セグメント利益の調整額15百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要なものがないため記載しておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

区分	運輸業	流通業	不動産業	建設業	レジャー・サービス業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
営業収益								
外部顧客への営業収益	16,548	7,874	2,047	2,123	1,429	30,024	—	30,024
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	7	997	379	546	8	1,939	△1,939	—
計	16,555	8,871	2,427	2,670	1,438	31,963	△1,939	30,024
セグメント利益	188	124	674	48	98	1,135	15	1,150

(注) 1 セグメント利益の調整額15百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要なものがないため記載しておりません。